

# 歴史刻む記念誌制作

## 12月の発刊目指し作業

### 南気仙沼地区 資料提供呼び掛け

東日本大震災で被災した南気仙沼地区の住民有志が、かつての地域の風景や歴史、震災の教訓を伝える記念誌の作成に取り組んでいる。離れ離れになった17行政区の自治会長らが再び結束して進めているもので、震災前の写真や資料の収集に当たり、住民に協力を呼び掛けている。

### 来月ワークショップも

内の脇や潮見町、川港町や幸町など一部地区などで構成し、水域で住民が生活している産加工場などが集積しているが、復旧・復興が進んでいた同地区。現在、まず、大半が地区外で

の生活を余儀なくされている。

自治会などに残っていた各種記録や資料もほとんど流失したため、17行政区の元自治会長や行政委員が中心となり、歴史を刻むための記念誌を発行することを決めた。実行委員(委員長・鈴木文男内の脇一区自治会長)を立ち上げ、定期的に集まるなどして作

業を進めている。

地域住民の声を反映させるため、実行委では南気仙沼地区住民を対象にアンケートを実施。被災した中央公民館や南気仙沼小学校での思い、自治会活動、市民運動会や一景島神社どんと祭、大川さくらまつりなどの思い出、震災当時や現在の生活状況、地域の復興に向けた思いを質問形式で聞き取っている。これまでに計1000通を発送。自治会が

解散し、「住民の移転先が把握できない」などで、回収率は31・1%（先月24日現在）にとどまっている。このため、先月末だった締め切りを5月19日まで延長し、再度協力を呼び掛けることにした。被災地で支援活動に取り組むNPOシーズアジアの協力で、元住民らを対象にしたワークショップを6月2日午後2時から市民会館で開く。記念誌に使うほしい写真などを会場に持ち寄ってもらい、住民同士で思い出を語り合う。

「南気仙沼地域の住民の思いを集め、震災の教訓として後世に伝えたい」と実行委の熊谷義弘事務局長（弁天町1区自治会長）。記念誌は12月の発行を目指している。

気仙沼市文化協会の総会は、14日午後2時



記念誌の制作に向けて話し合う自治会長ら

### 情報提供求めチラシ配布

#### 南三陸署 強盗殺人事件から11年

南三陸町志津川竹川 逮捕に結びつく有力な

供者に支払う謝礼金（最高500万円）を継続して協力を求めている。1日には情報提供を呼び掛けるチラシ50

全国へお花をお届けします。

**花キュービット**

**花香園**

気仙沼市赤岩五駄館77-5

☎0120-23-8733

ニッコリと晩酌今口  
骨粗しょうシラスが  
宝くじ無駄と知って  
お隣の記事読み残り  
サクラ過ぎ三陸道は

の問い合わせは熊谷さん(電話090・43